

第 10 章 言語の獲得 1 : 第一言語の獲得 (郷路拓也)

<基本問題>

1. 英語における代名詞解釈の制約を、要素の線的順序のみに基づいて定義することができない理由を、具体例を挙げながら説明しなさい。

(解答例) 以下の A と B の文では、代名詞と固有名詞 John の線的順序は同じだが、代名詞の後方照応ができるかどうか異なる。

A. While he was watching TV, John ate pizza.

B. He ate pizza while John was watching TV.

文 A では he=John という後方照応解釈が可能なのに対して、文 B では不可能である。要素の線的順序が同じでも代名詞解釈の可能性に違いが生じるという事実は、英語の代名詞解釈の制約を要素の線的順序のみに基づいて規定することができないことを示している。

2. 英語と日本語の選言接続詞を含む否定文の意味の違いは、「日本語の「か」は否定からの意味的影響を受けない」と仮定することでは説明できない理由を、具体例を挙げながら説明しなさい。

(解答例) 日本語の「か」は常に連言的解釈を持たないわけではない。たとえば以下の C のような文において、「か」と否定辞がそれぞれ別の節に現れていて、「か」が否定に c 統御されている場合は、連言的解釈が可能である。

C. ジョンは[ピザか寿司を注文した]人を見つけられなかった。

この文は「ジョンはピザを注文した人も、寿司を注文した人も見つけられなかった」と解釈することができ、その点においては対応する英語の文(John couldn't find the person who ordered pizza or sushi.)と同じである。したがって、英語と日本語の選言を含む否定文が見せる意味の違いは、単純に「か」が連言的解釈を持ち得ないことに起因するものではない、と言える。

<発展問題>

1. Crain & McKee(1985)の実験では、本文中(4)タイプのテスト文と(5)タイプの刺激文に対して別々のストーリーを組み合わせている。この場合、子どもの反応の違いが、刺激文の構造的な違いではなくストーリーの違いにより引き起こされたものという可能性が消えない。この問題を解決すべく、同じストーリーの後に(4)タイプもしくは(5)タイプのテスト文を提示して条件Cに関する知識の有無を調べる実験のデザインを考案しなさい。

(解答例) 10章執筆者の意向により、この問題の解答解説は記載しません。

2. 大人の日本語話者が英語を学んだとき、(7a)のような英文をどのように解釈するだろうか。1つの可能性は、日本語型の解釈を引きずって、「寿司かピザのどちらかを食べなかった」という解釈を英語の文にも与える、というものである。もう1つの可能性は、英語型の「寿司もピザもどちらも食べなかった」という解釈を行う、というものである。このどちらであるかを確かめるためにはどのような実験を行えばよいか。重要なテスト文と、そのテスト文を提示する条件を組み合わせて提案しなさい。

(解答例) テスト文は、目的語位置に or が含まれる英語の否定文となる。たとえば以下のDのような文である。

D. The boy didn't eat the carrot or the pepper.

この文を、「男の子がニンジンかピーマンのどちらかを食べたが、もう片方は食べていない」という状況で提示し、その状況にあてはまるかどうかを判断させる。この条件で被験者がテスト文を許容すれば（つまり、「この状況にあてはまる」と判断すれば）、その反応は被験者がテスト文に日本語型の「どちらかを食べなかった」という解釈を付与したことを示唆する。一方、被験者が「あてはまらない」と判断した場合、それは英語型の「どちらも食べなかった」という解釈を行ったと考えられる。

